

## 職場体験 感想文コンクール2024

タイトル	新中ハローワークを終えて	事務局	107
学校名	新庄市立新庄中学校	氏名	遠田 拓豊

2024年7月25日から、僕の住む新庄そして最上地方は、数十年に一度といわれる記録的な大雨に見舞われました。祖母の話では50年前にもあったそうですが、ほとんどの人が初めての経験だと思いました。そしてその日、住民の救助に向かった新庄警察署の警察官二人が乗ったパトカーが濁流に流され行方不明になり、亡くなってしまうという悲しい出来事がありました。その直後の仕事体験だったため、もしかしたら「参加できないかもしれない」と思いました。しかし、予定通り参加することが出来ました。新庄警察署の皆さんには感謝の気持ちでいっぱいでした。

僕は、将来の自分の仕事についてなかなか具体的なものが思いつかず、どこに行くか本当に悩みました。小さい頃は、おまわりさんや消防士などと言っていたと母から聞きましたが、小さいころの病気のことであまりその仕事には向かないと言われました。しかし、それだからこそ「やってみよう」と決めたのでした。

仕事体験の新庄警察署では、警察官の仕事の内容を見て学び、実際に所内の見学をしたり、警察官の服装や持ち物をみたり、パトカーに乗ったり、鑑識の体験をしたりしました。僕が、警察署を選んだのは、人のために働きたい、困っている人を助けたいからです。僕たちが見ている警察官の仕事は、道に迷っている人に場所を教えたり、パトロール、交通違反の取り締まり、事件の犯人を探したりすることなどです。しかし、その他にもたくさんの仕事があることがわかりました。大きなイベントやデモなどの警備、新庄まつりでもたくさんの警察官を見かけました。被災地での避難誘導、少年の非行を防止したり、痴漢などの防犯対策をしたりもします。鑑識という仕事もありました。鑑識の仕事は、犯行現場や事故現場で犯人探しや事件の解決につながりそうな証拠を集めて調査する仕事です。ドラマでは足型をとったり指紋をとったりしている場面をよく見ます。その中で指紋採取をさせてもらいました。慎重にやらなければならないし、細かい作業もあり苦労しました。とても難しかったです。手錠をはめてもらいました。ドラマみたいに手錠をかけると取れやすくなってしまうので、しっかりがっちりとはめないといけないんだそうです。僕は「これから犯罪を犯して、手錠をかけられないように気を付けよう」と思いました。パトカーにも乗らせてもらいました。「普通の車と何ら変わらないでしょ？」と聞いていました。ですが全然違いました。いろいろな機械がついていて「かっっこいい」と、内心とてもテンションが上がっていました。僕は「パトカーにも、犯罪を犯して乗らないように気を付けよう」と心に決めました。

警察は主に次の6つに分けられます。刑務部門、生活安全部門、刑事部門、交通部門、警備部門、交番勤務です。刑務部門は、組織の基盤を支え県民を守るや、働きやすい勤務環境整備、安全安心を守る人材の育成などです。生活安全部門は犯罪を防止し、県民を守る、子どもや女性、高齢者を守ることなどです。刑事部門は、犯罪を検挙し県民を守る。重要、悪質な犯罪を検挙することなどです。交通安全部門は、交通事故を防止し県民を守ることです。警備部門は、テロ等の未然防止を図る、災害等で人命救助にあたることなどです。交番勤務は地域の治安を守るためにいち早く現場に駆け付けるです。このように様々な種類の警察官がいるのです。

最後に質問をしました。「警察官になってよかったときはどんな時ですか?」「自分たちの仕事をした後に「ありがとう」と言われる時です。」「失敗することやつらいことはありますか?」「小さな失敗はありますが、次にいかすようにしています。つらいことは仲間を失ってしまうことです。」今回の仕事体験を通して学んだことは、警察官は命を落とすかもしれない危険で大変な仕事ということもあるが、その分やりがいを感じる嬉しいこともあるということです。

僕自身、警察官は「辛そう」「大変そう」「危険そう」など、あまりよくないネガティブなイメージがありました。警察官の仕事は確かに「危険で大変な仕事で厳しいな」と思う人もいるかもしれないと思います。確かにその通りかもしれませんが、しかしそれ以上に、僕たち市民が「ありがとう」などの感謝の声が、ネガティブなイメージがどうしてもいいくらいにモチベーションにつながっているそうです。僕たちの日々の「安全」を守る仕事です。この仕事体験で僕は、警察官の方々に対する尊敬の気持ちが高まってきました。

警察官の仕事の中には「こんなことも？」と思うものもあったかもしれません。しかし皆さんが知らなかった、あまり知られていない仕事も、すべてが僕たちを守ることに繋がっているのです。だから目立つ仕事だけではなく、あまり目立っていない仕事にも目を向け、こういう仕事もあるんだということを知ってほしいです。警察官は目立つ目立たない関係なくカッコいいし、僕たち市民のことを第一に考えてくれています。この仕事には警察官の方々の絶対に市民の安全を守るという強い気持ちが込められています。一人でも多く、警察官の仕事は確かに危険で大変だけど、それ以上に市民に感謝されることが嬉しいんだそうです。今後も警察官について考え続け、警察官の大変で危険だけどやりがいがあるということを伝えていきたいです。

なぜ仕事体験をするのかということを見ると、将来自分の力で生活することが出来るようになるため、お金を得るためだと思っていました。しかし、お金だけでなく、社会貢献にもつながることがやりがいになることを体験することが出来ました。

まだまだ、こんな大人になりたい。こんな仕事をしたい。こんな夢がある。という確かなものは持つことが出来ないでいます。これからも、いろいろな体験をしたり、いろいろな人と話したり、焦らず探していきたいです。